

令和6年度 入学試験問題

社 会

九州国際大学附属中学校

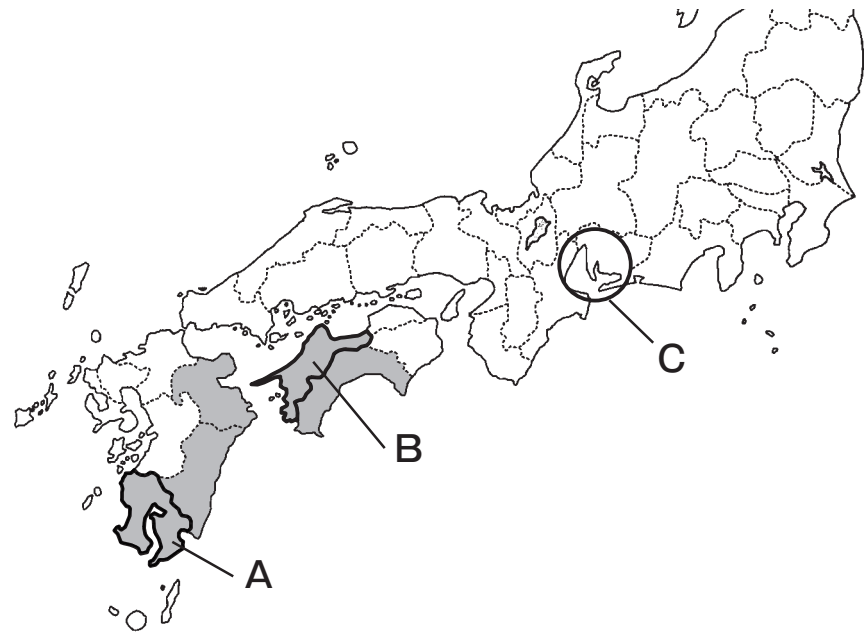
【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は30分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

受験 番号				氏 名	
----------	--	--	--	--------	--

1 次の問いに答えなさい。

(A) 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



(浜島書店白地図より作成)

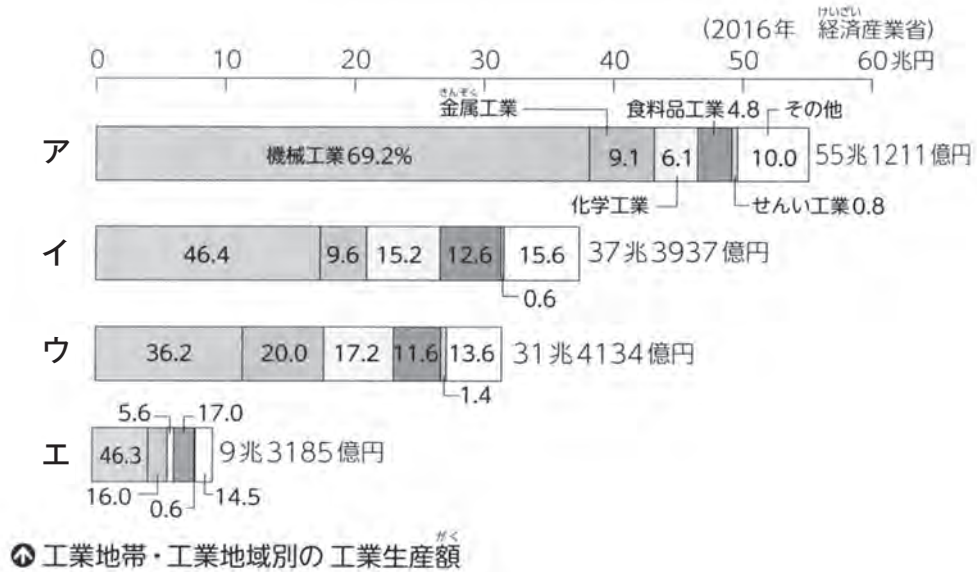
問1 地図中の A の県名を答えなさい。

問2 地図中の B の県庁所在地名を答えなさい。

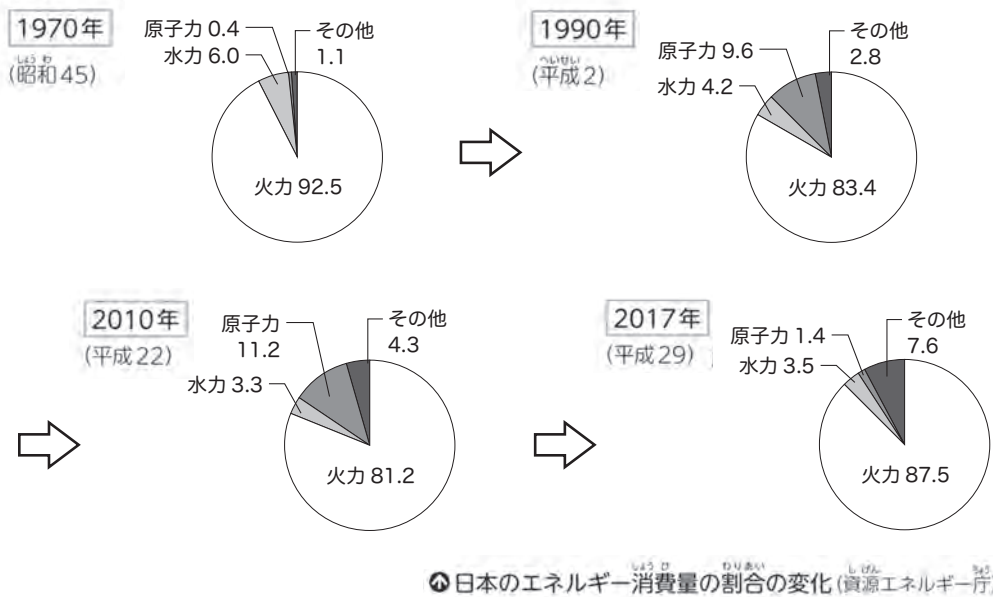
問3 地図中の の県は、養殖のブリの生産量が上位の県を示しています。ブリの養殖が盛んな地域は、暖流の通り道に近いため、冬でも水温が暖かく、ブリにとって住みやすい環境だそうです。これらの地域のブリの養殖に影響を与えている海流の名前を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア リマン海流 イ 親潮 (千島海流) ウ 黒潮 (日本海流) エ 対馬海流

問4 地図中の円Cで囲んだ地域の工業地帯の名前を答えなさい。また、この工業地帯の工業生産の様子を示したものを、次のア～エのグラフから選び、記号で答えなさい。



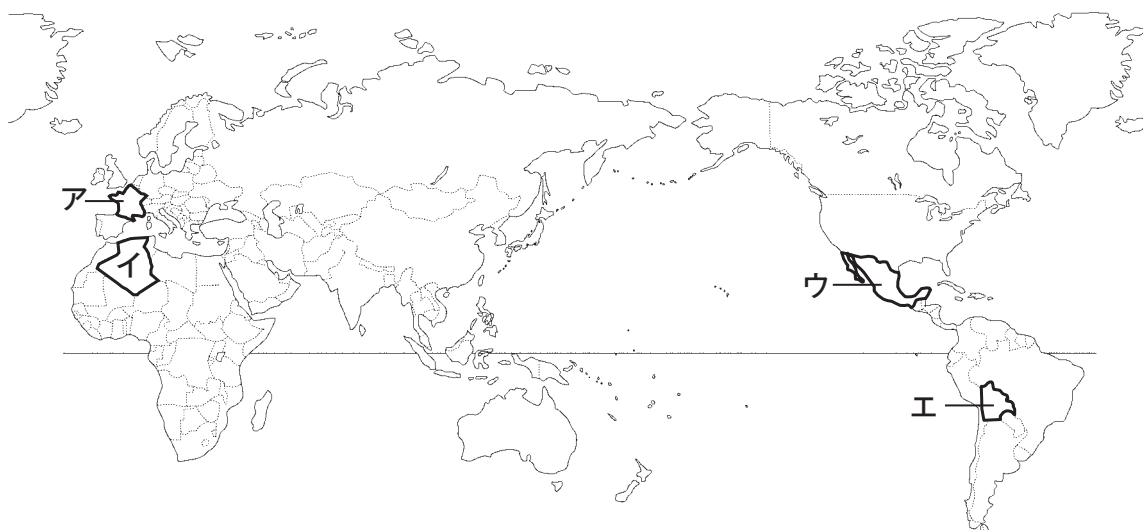
問5 次の資料は、日本のエネルギー消費量の割合の変化を示しています。この資料を参考に、日本のエネルギーについて述べた文として、あやまっているものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。



- ア 日本の発電は、火力発電が中心である。
- イ 火力、水力、原子力発電以外の発電方法の割合が増えてきている。
- ウ 日本では、1970年から2017年の間、火力発電の割合は減り続けている。
- エ 2011年の事故の影響で、2017年の原子力発電の割合が大きく減少している。

(B) 次の問いに答えなさい。

問1 2024年、フランスのパリでオリンピックが開かれます。地図中のア～エの中から、フランスの位置を選び、記号で答えなさい。

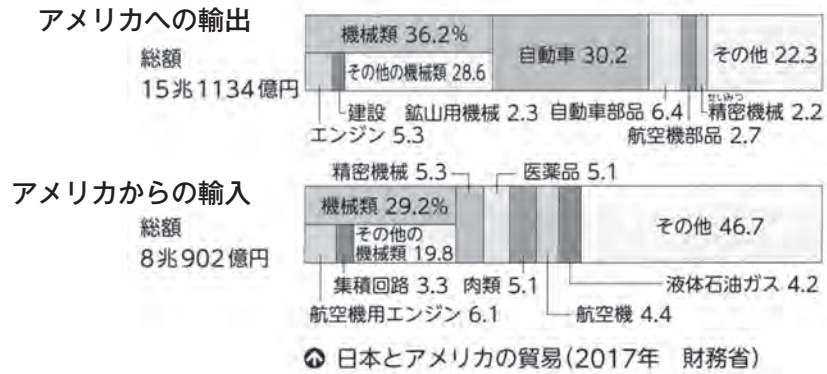


(浜島書店白地図より作成 地図中の直線は赤道を示している)

問2 南半球にある国を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 大韓民国 イ アルゼンチン ウ インド エ サウジアラビア

問3 日本とアメリカの貿易について示したグラフを説明した内容としてふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

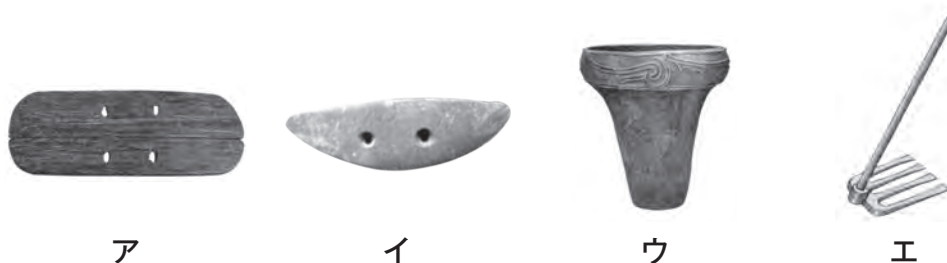


- ア アメリカは自動車産業が盛んなので、日本への輸出の割合が多い。
- イ 日本からアメリカに集積回路を輸出している。
- ウ 日本は、航空機部品を輸入し、航空機をアメリカに輸出している。
- エ 日本は、アメリカとの貿易で黒字となっている。

2 次の年表を見て、あとの問いに答えなさい。

時代	できごと
縄文	狩りや漁・採集をおこなって暮らす …………… ①
弥生	米づくりがはじまった …………… ②
古墳	豪族たちは連合し、大王を中心として <input type="text"/> という政府をつくった …… ③
飛鳥	聖徳太子（ <small>うまののおう</small> 厩戸王）が政治の改革をすすめた …………… ④
奈良	東大寺に大仏がつくられた …………… ⑤
平安	天皇に代わって政治を動かす貴族が現れた …………… ⑥
鎌倉	源頼朝が幕府をひらいた …………… ⑦
室町	<small>かんあみ</small> 観阿弥・ <small>ぜあみ</small> 世阿弥の父子が能を完成させた …………… ⑧
安土桃山	全国統一への動きが高まった …………… ⑨
江戸	江戸幕府による政治がおこなわれる …………… ⑩

問1 年表中の①について、次のア～エの中から、縄文時代に使われた道具としてふさわしいものを選び、記号で答えなさい。



問2 年表中の②について、弥生時代の米づくりの説明として正しいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア かり取ったいね稲の穂をほ書院造の建物に保存した。
- イ いたづけい板付遺跡（福岡県）には今から2300年前の水田のあとが見つかっている。
- ウ 冬から春にかけて、しっち湿地を耕して水田をつくった。
- エ けんずいし遣隋使やけんとうし遣唐使によって米づくりの技術が伝えられた。

問3 年表中の③について、 にあてはまる語句を答えなさい。

問4 年表中の④について、聖徳太子が定めた、【資料】が示すきまりごとを何といいますか。

【資料】

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第一条 | 人の和を大切にしなさい。 |
| 第二条 | 仏の教えを厚く敬 ^{うやま} いなさい。 |
| 第三条 | 天皇の命令には、必ず従いなさい。 |

問5 年表中の⑤について、次のア～エの中から、ため池や道路・橋などをつくる土木工事をおこなって人々から信頼をえて、大仏づくりにも協力した人物を選び、記号で答えなさい。



ア 行基



イ 鑑真



ウ 雪舟



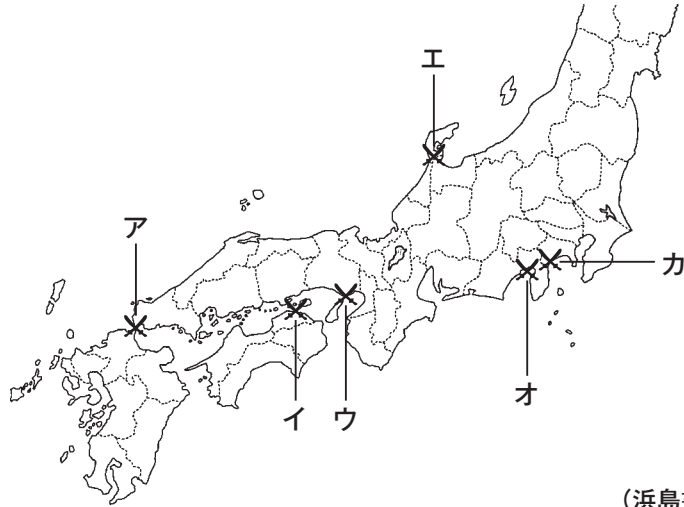
エ 聖武天皇

問6 年表中の⑥について、次のア～エの中から、「この世をば わが世とぞ思う もち月の 欠けたることも なしと思えば」という和歌をよみ、自分の権力の大きさを表現した人物を選び、記号で答えなさい。

- ア 藤原鎌足 イ 藤原道長 ウ 藤原頼通 エ 藤原純友

問7 年表中の⑦について、(1)・(2)に答えなさい。

(1) 次の地図中のア～カの中から、1185年に源氏が平氏を破り滅ぼした戦いの場所を選び、記号で答えなさい。



(浜島書店白地図より作成)

(2) 次のア～エの中から、平氏との戦いに勝った源頼朝が全国を支配するために置いた役職のうち、村で年貢の取り立てや犯罪の取り締まりをする役職名を選び、記号で答えなさい。

ア 守護 イ 地頭 ウ 執権 エ 征夷大將軍

問8 右の写真は年表中の⑧と同じころ、当時の日常の言葉を使ってこっけいな動作やせりふで人々を楽しませ、能の合間に演じられたものです。これを何といいますか。次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 盆おどり イ 猿楽
ウ 歌舞伎 エ 狂言



問9 年表中の⑨について、下のア～エの中から、安土桃山時代から江戸時代にかけて次の(1)～(3)をおこなった人物をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- (1) 征夷大將軍に任命され、幕府を開き、安定した政治をめざした。
- (2) 刀狩令を出して百姓から武器を取り上げ、一揆を起こさないようにした。
- (3) 力をもっていた仏教勢力を武力でおさえ、商工業をさかんにするために力を入れた。

ア 徳川家康 イ 織田信長 ウ 今川義元 エ 豊臣秀吉

問10 年表中の⑩について、次のア～エの中から、江戸時代に行われた政治の内容としてあやまっているものを選び、記号で答えなさい。

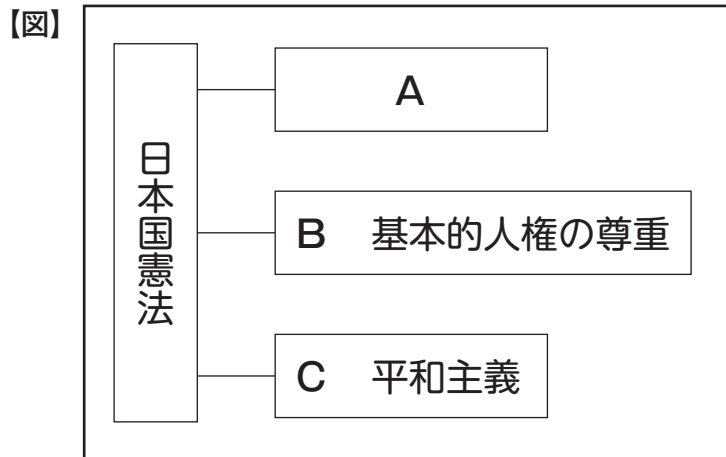
- ア 江戸幕府は、全国の200以上の大名を、親藩・譜代・外様に区別して支配した。
- イ 武家諸法度というきまりを定めて、大名が領地と京都を1年おきに行き来する参勤交代をおこなった。
- ウ 確実に年貢をおさめさせる工夫として、百姓に五人組をつくらせ共同で責任を負わせた。
- エ 中国とオランダの商人に限り、長崎での貿易を認めた。

問11 次のア～エは、明治時代から昭和時代にかけての出来事です。この出来事を古い順番に並べなさい。

- ア 日米安全保障条約を結ぶ
- イ 大日本帝国憲法が公布される
- ウ 日本が第一次世界大戦に参戦する
- エ 広島・長崎に原子爆弾が落とされる

3 次の問いに答えなさい。

(A) 次の図は、日本国憲法の三原則を表したものです。これを見て、あとの問いに答えなさい。



問1 図中のAにあてはまる語句を答えなさい。

問2 図中のBに関して、次のア～オの中から、国民の権利にあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

- ア 税金を納める
- イ 裁判を受ける
- ウ 健康で文化的な生活を送る
- エ 教育を受ける
- オ 政治に参加する

問3 図中のCに関して、次のア～エの中から、自衛隊の主な役割にあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな災害が起こったときに、現地で救援や救助活動を行う。
- イ 犯人を逮捕する。
- ウ 国の平和と安全を守る。
- エ 国際社会の平和や安定に向けた活動に取り組む。

(B) 国会には、衆議院と参議院があります。

問 1 次のア～エの中から、国会の仕事を 2 つ選び、記号で答えなさい。

- ア 法律を制定する。
- イ 天皇の国事行為に助言や承認をあたえる。
- ウ 法律が憲法に違反していないかどうか判断する。
- エ 予算や条約の承認をする。

問 2 次の表は、どちらかの議院の選挙の投票率の推移を表したものです。どちらの議院のものかを答えなさい。また、選んだ理由を答えなさい。

【表】

ある議院の選挙の投票率の推移	
平成 7 (1995) 年	44.52%
平成 10 (1998) 年	58.84%
平成 13 (2001) 年	56.44%
平成 16 (2004) 年	56.57%
平成 19 (2007) 年	58.64%
平成 22 (2010) 年	57.92%
平成 25 (2013) 年	52.61%
平成 28 (2016) 年	54.70%
令和 元 (2019) 年	48.80%
令和 4 (2022) 年	52.05%

(総務省ホームページより作成)

